

全国学力・学習状況調査について

広島市立舟入小学校

校長 花本 和彦

全国の小学校6年生を対象にした、全国学力・学習状況調査が4月24日に実施され、その結果が先日公表されました。全国調査の結果から、定着状況と課題を分析しましたので、ご報告致します。

25年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の実施日 平成25年4月24日(水)

3 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 各教科の平均正答率【小学校】

| 国語 | | | | | | | | 算数 | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A問題 | | | | B問題 | | | | A問題 | | | | B問題 | | | |
| 国 | 県 | 市 | 学校 | 国 | 県 | 市 | 学校 | 国 | 県 | 市 | 学校 | 国 | 県 | 市 | 学校 |
| 62.7 | 65.8 | 63.8 | 63.3 | 49.4 | 52.7 | 51.7 | 53.5 | 77.2 | 79.2 | 77.9 | 77.2 | 58.4 | 61.3 | 59.7 | 58.3 |

5 各教科の調査結果の概要

| 国語A | 【領域ごとの定着状況】 | | |
|----------------------|-------------|------|------|
| 領域 | 平均正答率(%) | | |
| | 全国 | 県 | 学校 |
| 話すこと・聞くこと | 43.2 | 46.1 | 45.0 |
| 書くこと | 53.0 | 55.9 | 45.9 |
| 読むこと | 60.1 | 63.7 | 67.1 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 62.6 | 66.0 | 64.8 |

| 国語B | 【領域ごとの定着状況】 | | |
|----------------------|-------------|------|------|
| 領域 | 平均正答率(%) | | |
| | 全国 | 県 | 学校 |
| 話すこと・聞くこと | 64.8 | 68.9 | 70.4 |
| 書くこと | 43.8 | 47.8 | 50.0 |
| 読むこと | 47.9 | 50.5 | 49.7 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 63.8 | 68.1 | 63.8 |

定着状況

- A問題, B問題ともに全国の平均を上回っており, 基礎学力はほぼ定着しているといえます。
- 二つの推薦文を比べて読んで, 推薦している対象や理由を読み取ることができています。
- 漢字の読み書き, ことわざや慣用句などの意味を理解するといった言語に関する事項は, よく定着しています。

課題

- 意味のつながりを考えながら, 接続語を使って内容を分けて書く問題の正答率が低いです。
- 目的に応じてグラフなどの資料を読んで, 分かったことを的確に書く力がまだ定着していないようです。
- 自分の考えの中心を明確にしながら, 一定の条件に合わせて書く力が充分ではないようです。

具体的方策

- 接続語や指示語などを適切に使いながら, 2つ以上の内容を必要に応じて1つの文に書き換えたり, 1文を内容ごとに複数の文に分けて書いたり, 箇条書きにしたりする練習を繰り返し行っていきます。
- 図や表, グラフなどの資料を読み, 分かったことを的確にまとめる時間を計画的にもちたいと思います。その際, 読み取った情報を比べて考えたり, つなげて考えたりしながら書く活動を仕組んでいきます。

算数A

【領域ごとの定着状況】

| 領域 | 平均正答率(%) | | |
|------|----------|------|------|
| | 全国 | 県 | 学校 |
| 数と計算 | 80.2 | 82.9 | 81.1 |
| 量と測定 | 68.3 | 70.3 | 68.8 |
| 図形 | 72.5 | 74.2 | 71.7 |
| 数量関係 | 83.4 | 84.7 | 81.9 |

算数B

【領域ごとの定着状況】

| 領域 | 平均正答率(%) | | |
|------|----------|------|------|
| | 全国 | 県 | 学校 |
| 数と計算 | 48.3 | 53.2 | 46.7 |
| 量と測定 | 56.0 | 58.6 | 57.1 |
| 図形 | 79.3 | 80.2 | 80.8 |
| 数量関係 | 54.9 | 57.4 | 52.7 |

定着状況

- A問題, B問題ともに全国の平均と同じくらいの正答率でした。基礎学力が概ね定着しているといえます。
- A問題では, 計算問題を解いたり, 面積を求めたりすることができています。

課題

- 複数のグラフから必要な情報を読み取ったり, 情報を整理して, 筋道立てて考えたりする力が充分ではないようです。
- 知識を基に, それを活用して解く力が弱いようです。数と言葉, 式を使って説明する問題では, 無解答率が高くなっています。

具体的方策

- 言葉・数・式・図・表・グラフなどを有効に活用し, 筋道立てて問題解決をさせていきます。
- 考えた事柄に, 理由をつけて順序立てて説明する言語活動を, 授業の中に取り入れていきます。考えた道筋をノートに書き残し, 説明や考えの整理に生かすことができるよう学習を進めていきます。

6 学力向上へ向けた全校的な取り組み

- 「書く」領域の力をつけるため, 国語科を中心に, 言語活動を充実させていきます。また, 各教科で自分の考えを文章に表す活動を増やしていきます。
- 自分の考えを, 根拠をはっきりさせたり, 具体的に相手を意識したりして論理的に説明できるように, 学年に応じた取り組みをしていきます。
- 今後も家庭学習の大切さを唱え, 家庭と連携して家庭学習の充実を図ります。